

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第5章 美の論理学？

- ・1. 美的価値を実現するための論理的手続き(アルゴリズム)はあるか (美の客観性)
- ・2. 美的判断は整合的な論理的推論構造を持つのか(倫理的判断なみに) (美の概念的体系性)
- ・3. 美的価値は物理的事実にsuperveneするか(倫理的価値なみに) (美の物理主義)

1に対しては カント、ヒュームら大半の哲学者が否定的

(ただし美的価値の有無・程度の客観性・普遍性は肯定されることしばしば)

* 1が検証可能であるための前提……「主観的判断は美的価値の有無・程度の証拠になる」
主観的に人類全員によって美しいと感じられていながら、実際は美しくないものはありうるか？
主観的に人類全員によって美しくないと感じられていながら、実際は美しいものはありうるか？
「人類全員がaよりbの方が美しいと思う。しかし実際には、bの方が美しい」ことは可能か？
いかなる主観的判断をも超えた美的価値は実在するか(倫理的判断はどうか)

* 2の系……美的性質は、標準論理を逸脱することがあるか？ (non-classical logic)
標準論理的な説明の存在が、**美的人格** aesthetic personality の統合にとって本質的か？
推論法則の否定 (deviant logic)
例：「aはFゆえ美しい」「bはFである」から「bは美しい」が導けない？
推論法則の付加 (extended logic)
例：「aはFゆえ美しい」「bはFでない」から「bは美しくない」が導ける？

* 3の系……抽象的存在(ex.数学的存在)の美は概念の関係構造にsuperveneするか？
物理的に同一の複数の可能世界が、美的価値について異なることはありうるか？

美的価値の客観性に対する 標準的懐疑論

- ① 美的価値については、任意の専門家どうしの評価を一致させられるとは限らない
- ② 普遍的・客観的な価値については、専門家どうしの意見を一致させられる
- ∴ ③ 美的価値は、普遍的・客観的な価値ではない

①→ 経験的にそうなのか、論理的にそうなのか

◎経験的.....徹底的な検証を行なえば、一致するかもしれない

一致しない理由は、主観的バイアスのような偶然的要因による攪乱かもしれない
主観的バイアスは美的価値の非偶然的な本質だという再反論も可能だが——

—→主観的バイアスと美的価値の本質を切り離せないという理由は不明

◎論理的.....第3章p.6「**相対主義的普遍主義の可能性**」に倣って、普遍妥当する永久文を作ることができる(ただし各専門家が評価の必然的理由を持つ場合)

②→ 科学的価値や倫理的価値について一致するのか 超越的真理があるのでは
「専門家」の定義が、意見の一致をみる者という循環定義になっていないか

③→ 既存の美的価値が普遍的・客観的でないとしても、普遍的・客観的な価値として再定義できるかもしれない

美的推論の妥当性に対する 標準的懐疑論

- ① 美的推論において、同じ前提から、相容れない結論が導かれることがある
(解釈と評価は独立である→同一の解釈から、異なる評価が正当に導かれうる)

A, B, C, D, …… ∴ Z

A, B, C, D, …… ∴ Ω Z ⊃ ~Ω

- ② 妥当な推論においては、同じ前提から、相容れない結論が導かれることはない
∴ ③ 美的推論は、妥当な推論ではない(正当化の「理由」を持ちえない)

①→ 経験的にそうなのか、論理的にそうなのか

◎経験的……徹底的な検証により、「同じ前提」でないと判明するかもしれない
暗黙の補助前提が紛れ込んでいるかもしれない 前提の中の評価的要素に必ず違いが見出せるかもしれない 「相容れない結論」は見かけ上のものかもしれない

◎論理的……第3章p.6「**相対主義的普遍主義の可能性**」に倣って、両立する永久文に結論を変換できる 推論がなされた文脈に相対化することで普遍妥当するメタ推論を作ることができる(ただし各文脈が各推論を正当化する必然的理由を提供する場合)

②→ 科学的価値や倫理的価値についてはどうなのか(補助前提の相違)

③→ 既存の美的推論が妥当でないとしても、妥当な推論として再定義できるかもしれない(ex. 古典論理学からの公理の削除、公理の添加)

美的判断に理由を特定できるか？

① 私にとってaはFだから美しい

①1 私にとってaは美しい(私はaが美しいと思う)

①2 私にとってaが美しい理由は、aがFだからである と私は思う

② 私にとってbは美しくない(私はbが美しくないと思う or 美しいと思わない)

③ bはFであると私は思う

∴ 私にとってFは、何事かが美しい理由であるとともに、理由ではない(矛盾)

(②③なるbの存在可能性は、「美」のopen concept性から帰結 → 第4章 p.6)

①1、②→ 自分自身が持つ「～が美しいと思う」という心理的性質は、自覚によって検証できる現象的性質ではないのでは？ 好みについての自己誤認がありうるように

(cf. ～を赤いと思う、～を信じている、～を知っている、自分は幸福である、痛みを感じている、……)

誤認がないとすれば、私は「bを美しく思うべき」である

①2→ Fの条件を狭めて(Fそのものの副次的特質、あるいは、他の性質との相互作用の効果などにより)、いっそう精密な述語F'を特定したらどうか。

↓↓↓

新たな反例に直面するたびに述語の更新を続けて外延を狭めてゆくと、いずれは、aという唯一の個物にしか当てはまらない述語(個体概念)に行き着くのでは？ (cf. Fetishism)

↓↓↓

一般化できない述語(性質)は、「理由」の名に値するか？

一般化できない = 個別判断は相互に独立 → → → 美的判断は論理構造を持たない
(美的人格は統合不可能)？ (「美しい」を「善い」に替えると → 統合可能な倫理的人格)

美的価値の推移性

非認知主義／非實在論を支持する背理法？

① 価値は推移的である(xがyより美しく、yがzより美しければ、xはzより美しい)

$$\forall x \forall y \forall z ((x > y) \wedge (y > z) \supset (x > z))$$

② 美的評価は推移的でない(「私はaがbより美しいと思う」「私はbがcより美しいと思う」「私はcがaより美しいと思う(aがcより美しくないと思う)」の三つがすべて正当な評価でありうる)

$$\exists x \exists y \exists z (B(x > y) \wedge B(y > z) \wedge B(z > x))$$

弱バージョン

$$\exists x \exists y \exists z (B(x > y) \wedge B(y > z) \wedge B(\sim(x > z)))$$

③ 価値は反対称的である(xがyより美しいならば、yがxより美しいことはない)

$$\forall x \forall z ((x > z) \supset \sim(z > x))$$

④ 評価が正しいのは、その意味(価値命題)が事実と一致するときに限られる $Bp \supset p$

∴ ⑤ 矛盾を導く美的評価が正当でありうる(美的評価は整合的な論理構造を持たない)

①→ 推移律は成り立たないかもしれない(価値多元主義 value pluralism と区別せよ)

②→ 推移律の破れは、選好・評価の要因を細分化すれば消滅する(表層の矛盾と深層の無矛盾)

③→ 文脈・側面に感応しない一義的用法で「美しい」を用いた場合に限られる

④→ 評価の正しさと、命題の正しさとは論理が異なるかもしれない

⑤→ $(a > b) \wedge (b > c) \supset \sim(c > a)$ ※ ①③より

$B(a > b) B(b > c) B(c > a)$ (②のもとでは、

※により $\sim(c > a)$ ④により $c > a$ 矛盾。

$B(a > b) B(b > c) B(\sim(a > c))$ (②弱バージョン)のもとでは、

④により $a > b b > c \sim(a > c)$ ①④により $a > c$ 矛盾。

相対主義のモデル～「隣の芝生は青い」の論理 2封筒問題

情報が限定された場合、相容れない価値判断が合理的になることがある

- ・見分けのつかない二つの封筒が提示される
 - ・一方には、他方のN倍の金額の小切手が入っている ということだけが教えられる
 - ・いずれか一方を選べば、そちらをもらえる
 - ・選んだあと、他方へと選択を変えてもよい
 - ・最初に選んだ封筒内金額を a 円 とする（文字化できない金額はない）
 - ・選ばなかった封筒内の金額は Na または a/N （それぞれ確率 $1/2$ ）
 - ・交換しない場合、獲得金額は a 円
 - ・交換した場合、獲得金額の期待値は $Na/2 + (a/N)/2 = (N^2 + 1)a/2N$
 - ・ $N=2$ とすれば、交換したときの期待値は $5a/4$
 - ・交換すると25%の得である
-
- ・ 「封筒Aを取った方が得である」
 - ・ 「封筒Bを取った方が得である」
-
- ・ 未開封設定 開封設定
 - ・ 反復設定 唯一設定

作品Wの解釈には、常に未規定箇所がある →

美的原理に従うと、常に「もとの解釈と相容れない新しい解釈」を探ることが合理的になる

相対主義のモデル～「隣の芝生は青い」の論理 2封筒問題

情報が限定された場合、情報の少ない方を選ぶことが合理的になることがある

- ・見分けのつかない二つの封筒が提示される
 - ・一方には、他方の2倍の金額の小切手が入っている ということだけが教えられる
 - ・いずれか一方を選べば、そちらをもらえる
 - ・選んだあと、他方へと選択を変えてもよい
 - ・最初に選んだ封筒内を見ると、2万円だった
 - ・選ばなかった封筒内の金額は 4万円 または 1万円 (それぞれ確率1/2)
 - ・交換しない場合、獲得金額は 2万円
 - ・交換した場合、獲得金額の期待値は $4万円/2 + 1万円/2 = 2万5千円$
- プレイヤー α 「封筒Aを取った方が得である」
 - プレイヤー β 「封筒Bを取った方が得である」

作品Wの解釈には、常に未規定箇所がある →

美的原理に従うと、常に「未規定箇所の多い方の解釈」を採ることが合理的になる

作品Wの解釈には、常に充填箇所がある →

美的原理に従うと、いかなる充填箇所についても「別の解釈」を探る(ただし、決めない)ことが合理的になる (認識的価値においては不利になっても、美的価値においては有利になる)

その前提として――

美的価値が推移律を満たす(量的である)ことが必要

デイヴィッド・ヒューム「趣味の標準について」『道徳・政治・
文学論集』名古屋大学出版会

フォン・ウリクト『規範と行動の論理学』東海大学出版会

ヤーッコ・ヒンティッカ『認識と信念』紀伊國屋書店

Ted Cohen “On consistency in one’s personal aesthetics”
Jerrold Levinson ed. *Aesthetics and Ethics: Essays at the
Intersection* (Cambridge U. P. 1998)